

■■■トイレ内のタイルについて

このトイレで使用しているタイルは、かつて西宮甲東園に建てられた芝川邸で使用されていたものです。

芝川ビルを建てた芝川又四郎の父、二代目 芝川又右衛門は、1911（明治44）年、西宮甲東園の地に建築家・武田五一の設計による洋館（旧館）を建てます。その後、旧館同様、武田五一の手によって、台所や和室、サンルームが順次増築され（新館）、芝川家の本拠地は、ここ大阪伏見町から甲東園へと移行していきました。

芝川邸は甲東園のシンボリック的存在として長年親しまれてきましたが、旧館は1995（平成7）年の阪神淡路大震災で大きな被害を受け、博物館明治村（愛知県犬山市）への移築が決定します。新館も2006（平成18）年に解体されることとなりましたが、専門家のアドバイスを受けながら、可能な限りの実測作業と主要部材の保存措置が講じられました。



解体前の芝川又右衛門邸 新館（昭和2年増築部）
トイレ・洗面所の様子



昭和2年竣工のサンルームにおける
芝川又右衛門夫妻



博物館明治村の旧・芝川又右衛門邸
（旧館。平成19年より公開）

この度は、新館で用いられた様々なタイルの中から、芝川ビルと同じ1927（昭和2）年に竣工した増築部分であるトイレ・洗面室のタイル6種類が再利用されています。

父の建てた建物から子の建てた建物へ—
受け継がれるのは、「部材」という単なる物だけではない
ことでしょう。
長い時間を経たタイルの美しい風合いをお楽しみいただき
ながら、この建物やそれにまつわる人々の歴史に思いを馳
せていただけると幸いです。